



平良木 哲也 (日本共産党議員団)

安心して暮らせる 医療提供体制を



問／安心して暮らすには、現在ある各病院が確実に維持されること、病院の統合や縮小再編はさせないことが必要だが、「ある程度の統合は必要」とした市長の発言の真意は何か。

答／病院自体の再編統合のことではなく、各病院が担っている医療機能の再編統合はやむを得ないとの認識を申し上げた。

問／医療機能の再編統合も、広い上越市の中で役割分担を無理矢理変えては大変である。

答／おそらく柿崎病院を心配していると思うが、同病院は地域の医療体制が非常に薄いとこのるので、もし無くすと言われれば知事を連れてきてでも、説得しなければいけないと考えている。

問／心強い答えだが、県による地域医療構想推進のためのグラウンドデザインでは、手術と救急は大病院に集約して、それ以外の病院では行わないとしている。そこで、柿崎病院は現状の機能をしっかりと維持するよう求めることをもう一度確認したい。

答／この部分については、県にしっかりと現場を見てもらわないと分からないと思う。そこで、現状維持を貫くということ、県とは調整していきたいと思っている。



高山 ゆう子 (みらい)

「子育て全国」の 保育環境の整備を



問／民営化が進む公立保育園の在り方や子どもを預ける保育環境は万全なのか。

答／民営化は保育園の機能や質の向上を図り、持続可能な保育環境の整備のため進めてきた。

問／昨今、兄弟が同じ公立保育園に通えない実情がある。「子育て全国」を目指すならばここから改善していただきたいがどうか。

答／保育園の定員によりご希望に添えない場合があるが対応していく。

移住・定住促進の取組状況は



問／当市における移住・定住促進の取組状況とコンシェルジュを配置した効果は。また、今後更に促進を進めるための市独自の戦略はあるか。

答／これまでワンストップ窓口を設け、コンシェルジュが対応しながら様々な取組を行ってきた。令和4年1月末の移住相談件数は190件、また、移住者数は83組129人で過去最多となった。



問／組織の連携が無いと今一つ取組が弱いと感じる。移住・定住こそプロジェクトにしてチームを組み、看板コンシェルジュも入れ、関連する民間会社等も一丸となり取り組むべきではないか。

答／8つのプロジェクトを連携させながら、地方回帰の潮流やデジタル化に対応し、当市を移住の地として選んでもらえるよう取組を進める。



安田 佳世 (久比岐野)

上越市の課題とは？ 地域の魅力の発信を！



問／市長は、上越市が今取り組まなければならない課題は何であると考えているか。

答／各地域がどういう魅力をもっているかを客観的に評価し直すことが大事だと考えている。

問／地域の魅力を見つけ出すためにどうするか。

答／外から移住してきた人たちの力を借りて、地域の良さを客観的に見ることで、改めて地域の魅力を見つめ直していく。

公約プロジェクトの今後の取組は

問／公約プロジェクトの具体的な内容やスケジュールが見えない。そこが示されないままに進むと、事業を実施する市職員や、事業に参画する地域や市民を巻き込んで大変な状況となることが予想される。内容やスケジュールを適切な時期に示すべきだと考えるがどうか。

答／改革を求めて、方向性を示さなくてはいけないが、プロジェクトは令和4年度から立ち上がる。これから市職員が集まって会議をしながら進めていき、市民や議員とも共有をしながらプロジェクトを更に膨らませ、発展させていきたい。

問／部局横断的な取組を効果的に進めるには。

答／異なる部局が集まって話し合うことである。異なる効果が生まれる。方向性を揃えて、今後取組を進めていきたい。